



（株）津軽りんご市場営業だより 第80号 2023.6
 生産者の皆様へ 発行：（株）津軽りんご市場
 TEL 0172-72-1211

----------*-----*-----*-----*-----*-----*-----*-----*
 実すぐりは“早く”“強く”、

～樹勢に見合った着果量を！～

- ・一樹一樹、樹齢や樹勢は違うので、着果個数も異なります。樹をよく観察して樹勢に合った着果数にしましょう。
- ・摘果作業の際、不用な徒長枝剪定を一緒に行うと効率的です。

周年供給の要は有袋栽培

- ・青森県産りんごの周年供給を維持するために、積極的に有袋栽培へ取り組みましょう。
- ・有袋栽培をすることで、つる割れの軽減や収穫時期の分散が可能となり、上実率の高さと貯蔵性が向上されます。
- ・被袋期間が75日以上となるように計画的に作業を進めて、一発袋は6月末、二重袋は7月10日頃を目安に終えるようにしましょう。

腐らん病、防除対策について

◎ 発生状況

- ・病害虫防除所が4月中に実施した巡回調査によると、県内47園地中30園地で枝腐らんが認められ、前年と同様に平年よりやや多くなっている。

◎ 防除対策

- ・枝腐らんは、見つけ次第切り取り適切に処分する。また、胴腐らんの発病が著しい樹は伐採するなど、伝染源の除去に努める。



防除徹底!! モモシクイガ!!



◎発生生態及び発生好適条件

- ・成虫の発生は年に1～2回で、6月下旬から9月上旬まで連続的に出現する。6～7月が低温の場合は、年1回発生が多い。
- ・産卵は夜間に行い、日最低気温が15℃以上の日が続くと連続的な産卵時期となる。夜温が低いと活動しにくくなる。
- ・産卵後7～10日で孵化した幼虫は果実に食入し、20日程度経過すると果実から脱出して地表に落下する。休眠しない幼虫（年2回発生系統）は土中で夏まゆを作り、10～15日で羽化する。休眠幼虫（年1回及び2回発生系統）は地中に冬まゆ態として越冬し、5月頃地表近くに移動して夏まゆを作り蛹化し、6月に羽化する。

◎防除方法

- ・成虫発生の6月下旬以降に定期的に薬剤防除を行い、発生を抑制する。
- ・交信攪乱剤（コンフューザー）を利用し、発生を防ぐ。
- ・有袋栽培で果実への産卵を防ぐ。
- ・成虫羽化期に地表面散布を行う。

★農薬を使用する際には必ず最新の農薬登録情報を確認して下さい。



産地担当者から一言



.....

 産地担当者氏名

.....

 携帯電話